飜る日章旗の下　打樹てよ道義文化　帝都の出陣學徒激勵大會　香山氏獅子吼[[1]](#footnote-1)

半文の設者として、また皇道への先者として知られる現代半年の兄山光郎氏（李光洙）は廿一日東京神田駿河明治大學記大において開かれた朝學會主の出學大會にみ“青年に告ぐ”として々たるをひの青年學にをく銘をへたが、その要は左の如くである【寫眞＝香山光郎氏】

私は諸とにびに震わせこの言葉を諸に□としてりたい。□□[[2]](#footnote-2)には今朝とか、内地とかいふ區別はない。日のへる處、大君のしろしめす處、諸の郷土であり南北太平洋にまたがつてをる。

この日章旗　を守る者、それは我々日本國である。小下は内同同を二千五百萬におしされ、それをもつて施政の大方とされてをる。これは朝治上特すべきことであり、我々の特に銘記しなければならぬことだ。國と朝といふについていへば、朝はもともと内地同様神道の國であり、内地人の神と崇めまつる伊弉、伊弉の二柱はやはり我々の先特に高勾麗がし奉つてゐた神様である、このことは熊野神の御神に朝でその神々の御名が記されてをることでもる。

また文化の點からいへば、中世において皇國の御制度を確立遊ばされた聖徳太子様は半島から渡來した

惠慈の御進講　を受けさせられてゐられる。また有名な法隆寺の佛畵もやはり半島から渡來した曇徴といふ人の作といはれる。武士道と朝鮮人についても高勾麗や新羅の亡命客で關東地方を拓き、その關東に鎌倉武士や關東武士などがおこつた處を見ればこれにも内鮮の血緣的關係は當然考へられる。彼の有名な征夷大將軍坂上田村麻呂の如きも半島人の裔といはれる。斯く觀じ來れば全く内鮮はすべてにおいて同じであつて、特に朝鮮が過去において

皇國創成に　齎した功績は大といはねばならぬ。併しこれは過去のことであつて、現在はどうか、これはいふまでもない、現在朝鮮人の果たす使命は過去でなく未來にある。

而もそれは從來の世を造すべき日本國の大いなる造ではなくてはならん。ち現世はアングロサクソンの來した利慾文明の爲、渾沌たるに淪させられてをる。日本はこの利慾に對するに道義を以てつてをる。道ちひらたくいへば人に基く文である、我々朝人は來内地人同様、この人を尊ぶ國である。そして今や我々は眞の皇國としてその道文明造のため召されたのである。この光この、正に半開闢以來の事と申さなければならぬ。諸はこの何なる人も成し得なかつた

原理を把握　し、それに身をげんがためされたと私は信じてはない。大の醜の御盾と召された光の諸、日のへる大東にこの大なる道文を打ち樹てるため一切を□つて突進しようではないか。

1. 1943年11月22日付『京城日報』夕刊 [↑](#footnote-ref-1)
2. 「日本」か。 [↑](#footnote-ref-2)